京都国立博物館だより

二〇二四年
一〇・一一・一二月号

KYOTO NATIONAL MUSEUM

2024 October to December, vol. 224

特別展
法然と極楽浄土

［予告］新春特集展示
巳づくし
―干支を愛でる―

【特別展】
法然と極楽浄土

10月8日(火)～12月1日(日)
[主な展示替]
前期展示：10月8日(火)～11月4日(月・休)
後期展示：11月6日(水)～12月1日(日)
※会期中、一部の作品は右記以外にも展示替を行います。
【平成知新館】

内乱や災害・疫病が頻発し、釈迦の教えが廃れてしまったという末法思想が広がった平安時代末期、浄土宗の祖・法然（一一三三～一二一二）は、疲弊した人々の救済を目指しました。法然はもともと比叡山延暦寺で天台宗を学んでいましたが、ひたすら「南無阿弥陀仏」（阿弥陀如来を信じます、帰依します）と声に出して称えるだけで誰もが等しく阿弥陀仏に救われ、極楽浄土に往生できるという革新的な教えを説き、多くの信仰を集めるに至ります。法然が中国・唐時代の浄土僧である善導（六一三～六八一）の著作からこの教えに辿りつき、立教開宗を果たしたのが承安五年（一一七五）のことといわれています。浄土宗は貴族から庶民に至るまで広い階層の人々に支持され、また弟子たちがその教えを受け継いでいくことで、その後の日本仏教を大きく様変わりさせました。

本年は、その開宗から八五〇年という節目の年にあたります。法然の時代から、弟子たちによる諸派の創設と教義の確立、そして徳川将軍家の帰依によって大きく発展を遂げるまでの歴史を、全国の浄土宗寺院等が所蔵する国宝、重要文化財を含む貴重な名宝によって辿る、初めての試みになります。阿弥陀仏への祈りを託した彫像や、浄土図・来迎図、または法然への尊崇から生まれた肖像や絵伝、あるいは教学が研鑽されるなかで浄土信仰に限らず集められた貴重な仏教典籍など、浄土宗が培わったさまざまな美術や学問をご覧いただくことで、日本の宗教文化や死生観に深い影響を与えたその重要性を知るまたとない機会になるでしょう。

とくに法然が活動の拠点としたここ京都には、総本山知恩院をはじめとする本山級の浄土宗寺院や、法然ゆかりの施設などが多く所在しています。この地に位置する当館では、各所から貴重な文化財をお借りして、巡回三会場中最多の出品数で、浄土宗の歴史をきめ細かにご紹介します。法然の事績を描いた国宝「法然上人絵伝」（京都・知恩院蔵）、修理後初公開の国宝「阿弥陀二十五菩薩来迎図（早来迎）」（京都・知恩院蔵）、八世紀に織られた究極の極楽浄土図である国宝「綴織當麻曼陀羅」（奈良・當麻寺蔵）といった、本展の中心となる名品はもちろん、国宝「阿弥陀三尊像」（京都・清浄華院蔵）や、重要文化財「当麻曼荼羅図」（京都・永観堂禅林寺蔵）、「阿弥陀如来立像」（京都・百萬遍知恩寺蔵）など、この会場でしか見られない作品も四十件以上ありますので、ぜひ足をお運びください。

（井並林太郎）

◆知っておきたい 展覧会を理解するためのキーワード◆

◆極楽浄土と阿弥陀如来

浄土宗でもっとも中心的に信仰される仏（本尊）は、極楽浄土に住む阿弥陀如来（阿弥陀仏）です。阿弥陀如来はすべての衆生を救うために立てた四十八の誓願を達成し、極楽浄土を建立しました。西方にあるといわれるその世界は、美しい七宝や花、妙なる音楽に満ち、一切の苦がありません。念仏を称える人が現世で臨終の際、阿弥陀如来は聖衆とともに来迎し、極楽浄土への往生に導いてくれると考えられています。

◆浄土教と浄土宗

もともとインド・中国で発展した極楽浄土への往生を願う信仰は、日本では天台宗の比叡山延暦寺や平安貴族を中心に取り入れられました。一般にこれらを「浄土教」「浄土信仰」と呼びます。源信の『往生要集』は平安時代におけるその代表的な著作です。法然はこのように浄土教が盛んであった比叡山で学び、とくに中国の善導から大きな影響を受け、独自の教義を確立し教団を形成するに至りました。これが今に続く「浄土宗」で、親鸞の浄土真宗や一遍の時宗が成立する土台ともなりました。

◆南無阿弥陀仏と専修念仏

「南無阿弥陀仏」とは、「阿弥陀如来に帰依します」という意味です。浄土宗では、六字名号ともいわれるこのフレーズを、念じるだけでなく声に出すこと（称名念仏、口称念仏）が、極楽往生を遂げるために必要な行法とされます。他の行を排してひたすら念仏を称えれば極楽往生できるという「専修念仏」の教えは、立場の異なる教団から批判を浴びましたが、その容易さから多くの支持を得ました。

◆特別展「法然と極楽浄土」限定 ARフィルターが登場！◆

Instagramより入手できる、特別展「法然と極楽浄土」限定のARフィルターが登場します！スマートフォンのカメラをかざすと、展覧会メインビジュアルがフレームとなるタイプと、京都国立博物館公式キャラクター・トラりんが可愛い仕草であらわれるタイプの２種で、展覧会をよりお楽しみいただけます。

【利用方法】
展覧会公式Instagramアカウント（@honen2024_25）のプロフィール画面よりご利用ください。
トラりんタイプは10月7日(月)10時からご利用いただけます。
配信期間：令和6年12月2日(月)
午前10時まで
※機種等によっては正常に動作しない場合があります。
※パソコン、タブレットでは動作しません。

宗祖・法然の足跡をたどる聖典

重要文化財　法然上人坐像　奈良・當麻寺奥院
（画像提供：奈良国立博物館）（10月8日～11月4日展示）

国宝　法然上人絵伝　巻第六（部分）　京都・知恩院（10月8日～10月20日展示）

中国・南宋時代の浄土教絵画の白眉　京都会場限定

国宝　阿弥陀三尊像　普悦筆　京都・清浄華院（11月6日～12月1日展示）

究極の極楽浄土図　県外初公開

国宝　綴織當麻曼陀羅（部分）
奈良・當麻寺（画像提供：奈良国立博物館）（11月12日～12月1日展示）

京都会場限定

重要文化財　厨子入千躰地蔵菩薩像　京都・報恩寺

京都会場限定

重要文化財　当麻曼荼羅図
京都・永観堂禅林寺（10月8日～11月10日展示）

京都会場限定

重要文化財　徳川秀忠坐像　康猶作　京都・知恩院

冒頭が法然自筆と伝わる浄土宗の根本宗典

重要文化財　選択本願念仏集（廬山寺本、冊首）
京都・廬山寺（10月8日～11月4日展示）

修理後初公開

国宝　阿弥陀二十五菩薩来迎図（早来迎）　京都・知恩院（11月6日～12月1日展示）

浄土、現世、地獄を描き、阿弥陀の慈悲を示した名品　京都会場限定

重要文化財　地蔵菩薩立像
愛知・西光寺

阿弥陀如来立像
京都・百萬遍知恩寺

重要文化財　地獄極楽図屏風　京都・金戒光明寺（10月8日～11月4日展示）

涅槃図を立体化！日本一の仏涅槃群像

仏涅槃群像　香川・法然寺　※本展では、涅槃像と群像の一部を展示します。

担当研究員一押し

贈円光大師号絵詞　巻中（部分）　明誉古礀筆　京都・知恩院（巻替あり、この場面は11月6日～12月1日展示）

博物館だより版・虎ブログ

知恩院に行ってきたリン！

トラりん：こんにちリン！　トラりんだリン！
特別展「法然と極楽浄土」のために、知恩院に来たよ！

井並研究員：よく来たね、トラりん！ここ知恩院は、浄土宗の総本山。浄土宗発祥の地とされているよ。この門を見て！

トラりん：どでかいリーン！

井並研究員：この三門は日本最大級の木造の門で、国宝に指定されているよ。通常、内部は非公開なんだけど、2024年11月1日（金）～11月10日（日）の期間、特別公開されるよ。

トラりん：そうなんだ！京博の特別展の期間にも重なるね♪

井並研究員：境内に上がると、大殿とも呼ばれる巨大な「御影堂」が目に入るね！

トラりん：あ！柱が立っている！それに、このひもは何かな？

井並研究員：浄土宗開宗850年を記念して建てられた「結縁柱」だよ。あの五色の糸は、御影堂の中央におまつりされている法然上人の御影（お像）の御手とつながっているんだ。この柱に触ることで法然上人とご縁を結ぶことができるよ。

トラりん：さわるだけで…！とってもありがたい柱なんだね！

井並研究員：この御影堂は徳川3代将軍、家光（1604～1651）によって建てられた大伽藍で、三門とともに国宝に指定されているよ。
境内には、ほかにも重要な建造物がたくさんあるんだ。見どころをめぐってみよう！こちらの「大方丈」は狩野派の画家たちが描いた襖絵が見どころ。通常非公開のところ、特別に内部に入れていただいたよ。

トラりん：虎もいたリン！

井並研究員：大方丈・小方丈も、三門と同じ期間に特別公開されるので、展覧会とあわせて見に来ていただけると嬉しいね。続いて、こちらも通常内部非公開の「経蔵」だよ。

トラりん：わっ、これはなに？

井並研究員：「八角輪蔵」といって中に『宋版一切経』という大量のお経を納めるんだよ（※現在は別置）。回転式で、1回まわすと、すべてのお経を読んだことになるんだ。

トラりん：うんとこしょ！回してみるリン！

井並研究員：ちなみに中に納められている一切経は約6千帖あるから、普通に読んだら何年もかかるだろうね。輪蔵の下にはお経の守護神として、8面それぞれに天部が配置されているよ。このうち帝釈天、持国天、金剛力士、密迹力士には特別展「法然と極楽浄土」へお出ましいただくので、輪蔵を回して風を受ける躍動感あふれる姿をぜひ見てほしいな。

トラりん：京博の展示室でも会えるなんて、とっても嬉しいリン♪

井並研究員：そして最後はさらに階段を上がって浄土宗発祥の地、勢至堂へ。トラりん、ここの本尊の「勢至菩薩」は大事な仏さまだから、覚えておいてね。

トラりん：せいしぼさつ？どんな仏さまなのかな？

井並研究員：勢至菩薩は阿弥陀三尊の脇侍として知恵を司り、浄土宗でもっとも重要な仏さまである阿弥陀如来とともにおまつりされていることが多いよ。浄土宗を開いた法然上人は「勢至菩薩の化身」として尊ばれているんだ。

トラりん：法然さんが実は勢至菩薩さまだったってこと？

井並研究員：そうそう。それから、このお堂が建っている地は、もとは法然上人が念仏の教えを広めた禅房があったところ。だから「浄土宗発祥の地」なんだ。開宗850年ということで、勢至堂の本尊、勢至菩薩坐像（重要文化財）も京博に来ていただくことになっているよ（11月6日（水）から展示）。

トラりん：楽しみだリン！特別展「法然と極楽浄土」は、ウェブ版の虎ブログでもたっぷり紹介するリーン！

井並研究員：トラりんと研究員が見どころを紹介するトラTubeも、ぜひ楽しんでくださいね。

トラりん＆井並研究員：京博で待っているリン！

【トラりん公式サイト】
https://www.kyohaku.go.jp/jp/torarin/

《予告》【新春特集展示】

巳づくし
―干支を愛でる―

令和7年1月2日（木）
～2月2日（日）
【平成知新館　1F―2】

令和7年の「干支を愛でる」もファミリー向け！

作品を見るのが楽しくなるワークシート（小学校低学年～）

やさしい解説文（小学校高学年～）

草花獅子蛇文様金華布裂（部分）　京都国立博物館

来年の干支は巳（蛇）ですね。みなさんは蛇にどんなイメージを持っていますか？　不気味？　かっこいい？　それとも、かわいいでしょうか？

蛇は細長い体で手足がなく、ニョロニョロと動きます。ときどき古い皮膚を脱ぎ捨てる「脱皮」をしますね。なかには毒を持つものもいます。この不思議な生き物を見て、昔の人たちは恐ろしく思いながらも、特別な力を持つ存在だと考えてきたようです。昔のお話には人を襲う恐ろしい大蛇が登場することがありますが、いっぽうで蛇は、水の神や、豊かな実りをもたらす神としても信じられてきました。

この展示では、美術に登場するいろいろな蛇をご紹介します。大昔の土器にあらわされた蛇、インドの蛇、着物を着た蛇、長い体で漢字になりきる蛇、などなど……。これは蛇足（余分なお話）ですが、京博の蛇たちは展示ケースの中でおとなしくしていますので、蛇が苦手な人も安心して来てくださいね。

（水谷亜希）

有孔鍔付土器　京都国立博物館

重要文化財　絵師草紙（部分）　京都・毘沙門堂

重要文化財　十二類絵巻　巻上（部分）

【ミュージアムパートナー一覧】
※令和6年9月末現在

京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

【ゴールド】土屋 和之
株式会社 GREMZ ホールディングス
株式会社 俄／ZOZOTA 株式会社
【シルバー】学校法人 二本松学院
東レエンジニアリング株式会社
【ブロンズ】原田清朗

【キャンパスメンバーズ】
※令和6年9月末現在

「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」は、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。会員である大学や専修学校の学生および教職員の皆様には、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会などさまざまな特典を提供しています。

学校法人　瓜生山学園／追手門学院大学／国立大学法人　大阪大学／大阪大谷大学／大谷大学／学校法人　大手前学園／学校法人　関西大学／学校法人　関西学院／国立大学法人　京都大学／学校法人　京都外国語大学／国立大学法人　京都工芸繊維大学／学校法人　京都女子学園／京都産業大学／学校法人　京都精華大学／京都市立芸術大学／京都橋大学／京都先端科学大学／京都府立大学／近畿大学／四天王寺大学／就実大学／成安造形大学／学校法人　大覚寺学園／帝塚山大学／学校法人　同志社／奈良大学／奈良女子大学／国立大学法人　奈良先端科学技術大学院大学／学校法人　二本松学院／花園大学／佛教大学／学校法人　立命館／龍谷大学

◆寄附
京都国立博物館では文化財とそれを守り伝えてきた先人の想いを次の一〇〇〇年へと繋いでいくため、広く寄附を募っております。このたび、左記の方より寄附をいただきました。寄附の趣旨を踏まえ、大切に活用させていただきます。

喜多村 敦子　様

よみもの

雪舟には描けなかった山水図

山口県立美術館 副館長　荏開津通彦

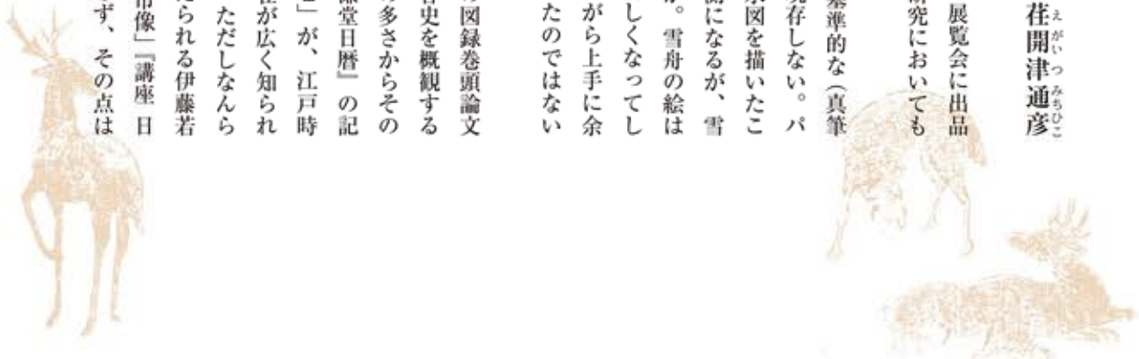
今春四月二十日に評判の高い「雪舟伝説展」を拝見した。九時の開館直後に入館し昼過ぎまで展覧会を観覧し、午後は綿田稔さん（文化庁）の講演をお聴きした。会場では畑靖紀さん（九州国立博物館）の姿もお見かけした。私と綿田さんと畑さんの三人は、三十年来ともに雪舟研究に携わってきた仲間である。この展覧会でお二人に会えたのはいい記念になった。

展覧会はじゅうぶんに堪能した。第一章の「雪舟精髄」には、国宝に指定されている雪舟の作品六件すべてが展示されており、作品ひとつひとつに十分なスペースが与えられていて、贅沢な空間の中で雪舟画の素晴らしさを存分に味わうことができた。

この「雪舟伝説展」は広報にもいろいろな工夫がなされ、チラシからして面白い作りであった。展覧会の概要を記す部分に大きな「※「雪舟展」ではありません！」という見出しとともに、この展覧会は「雪舟」の展覧会ではなくて「雪舟の受容史」の展覧会なのだ、という説明が注意書きのような体裁で書かれている。六件もの作品が国宝になっているのは雪舟だけ（二位は狩野永徳の四件）で、近代における雪舟に対する評価は日本の画家のなかでひときわ高い。これは明治維新以降に始まったことではなく、近世を通じて雪舟の評価は一貫して高かった。長谷川等伯（一五三九～一六一〇）、雲谷等顔（一五四七～一六一八）、狩野探幽（一六〇二～一六七四）、尾形光琳（一六五八～一七一六）、曾我蕭白（一七三〇～一七八一）といった錚々たる画家たちが雪舟画に学んだ作品を残しているのである。雪舟の受容史を辿ることによって近世絵画史の流れを確かめることになり得る所以である。会場に並んでいた作品で、その美しさに感動したのは狩野探幽の二点の「山水図屏風」【27】と【28】、そして曾我蕭白「富士三保図屏風」【59】であった。とくに図録の表紙にも取り上げられている探幽の「山水図屏風」【27】は、展覧会に出品されること自体が今回が初めてであり、この度の紹介は探幽研究においても大きな意義のあることであった。

探幽と蕭白の屏風は大画面の山水図だが、雪舟その人には基準的な（真筆であることが間違いないと考えられている）大画面山水図が現存しない。パトロンであった山口の守護大名・大内政弘の邸の襖などに山水図を描いたことは確実だが、実作品が残されていないのである。これは推測になるが、雪舟自身は大画面の山水図はあまり得意ではなかったのでないか。雪舟の絵は描き込み過ぎてくどくなる傾向がある。大画面にすると息苦しくなってしまう。その点探幽や蕭白は、雪舟の構図やモチーフを用いながら上手に余白のある画面を作り出している。雪舟にはこうは描けなかったのではないかと思う。

自宅に帰ってから、展覧会を企画担当された福士雄也さんの図録巻頭論文「「画聖」雪舟への道程」を拝読した。近世を通じての雪舟受容史を概観するためには膨大な量の文献を見てゆくことが必要で、引用資料の多さからそのご苦労がしのばれた。この論文中、儒学者松崎慊堂の日記『慊堂日暦』の記述から伝雪舟筆「唐土勝景図巻」【67】および「国々人物図巻」が、江戸時代後期に大坂の豪商加嶋屋に所蔵されており、周囲にその存在が広く知られていたことを突き止めたのは、鮮やかな発見と評価されよう。ただしなんらかの事情によるものか、「唐土勝景図巻」の影響が及ぶと考えられる伊藤若冲「乗興舟」や与謝蕪村「夜色楼台図」（佐藤康宏「雅俗の都市像」『講座 日本美術史1』東京大学出版会、二〇〇五年）は出品されておらず、その点は惜しまれた。



表紙：国宝　法然上人絵伝　巻第六（部分）　京都・知恩院（10月8日～10月20日展示）／重要文化財　地獄極楽図屏風（部分）　京都・金戒光明寺（10月8日～11月4日展示）／
贈円光大師号絵詞　巻中（部分）　明誉古礀筆　京都・知恩院（巻替あり、この場面は11月6日～12月1日展示）

京都国立博物館の庭園をめぐるアプリケーション
京博庭園ナビのお知らせ

「京博庭園ナビ」は、お持ちのスマートフォンやタブレットを使って、京都国立博物館の庭園を楽しんでいただける無料のアプリケーションです。屋外展示や建物など、特定のスポットにカメラをかざすと、解説やARが表示されます。ご来館の際にぜひご利用ください。

利用可能時間：9：30～16：30
料金：無料（ただし、当日の観覧券等が必要）
※館内ではフリーWi-Fiをご利用いただけます。
※パソコンでは正しく動作しません。

詳しい利用方法はこちら
https://www.kyohaku.go.jp/jp/learn/museum/garden-navi/

講座・イベント

《特別展「法然と極楽浄土」記念講演会》

10月12日（土）「知恩院と天下和順―歴史の中の法然上人―」
佛教大学名誉教授・総本山知恩院史料編纂所編纂主任 今堀太逸 氏

10月19日（土）「浄土宗と仏画とのかかわり」
京都国立博物館教育室長 大原嘉豊

11月 9日（土）「法然尊慕―肖像と絵伝を中心に―」
京都国立博物館主任研究員 井並林太郎

11月16日（土）「阿弥陀仏の造形」
京都国立博物館主任研究員 竹下繭子

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料（ただし講演会当日の特別展観覧券が必要）。
※参加ご希望の方は、各講演会前日12時までに京都国立博物館ウェブサイト（https://www.kyohaku.go.jp/jp/events/mem/202410-11_honen-lec/）よりお申し込みください。事前申し込み制（先着順、定員になり次第受付終了）。

《特別展「法然と極楽浄土」キャンパスメンバーズ講演会》

「法然上人絵伝を考える」
登壇者：nixon（辻村知夏）氏（イラストレーター・紙芝居「法然上人一代記」作者）、井並林太郎（京都国立博物館主任研究員）
日　時：10月13日（日）13～14時
会　場：平成知新館 講堂
参加方法：10月10日（木）までに京都国立博物館ウェブサイトよりお申し込みください（先着順、定員になり次第受付終了）。
https://www.kyohaku.go.jp/jp/events/event/20241013_campus-lec/

《特別展「法然と極楽浄土」トークイベント》

「笑い飯 哲夫と仏教について語る」
登壇者：笑い飯 哲夫 氏（漫才師）、井並林太郎（京都国立博物館主任研究員）
日　時：10月24日（木）11～12時
会　場：平成知新館 講堂
参加方法：10月17日（木）までに京都国立博物館ウェブサイトよりお申し込みください（先着順、定員になり次第受付終了）。
https://www.kyohaku.go.jp/jp/events/event/20241024_waraimeshi-tetsuo/

これからの展覧会

◆新春特集展示　巳づくし―干支を愛でる―
令和7年（2025）1月2日（木）～2月2日（日）

◆特集展示　新時代の山城鍛冶―三品派と堀川派―
令和7年（2025）1月2日（木）～3月23日（日）

◆特集展示　雛まつりと人形
令和7年（2025）2月15日（土）～3月23日（日）

展覧会やイベントの中止や延期、会期や展示期間の変更などを行う場合がありますので、最新情報については、当館ウェブサイト等をご確認くださいますようお願いいたします。

◆ 名品ギャラリーの休止予定 ◆

特別展とその前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー休止期間：9月10日（火）～10月6日（日）
12月3日（火）～12月28日（土）
※上記期間中は庭園のみ開館となります。

ご利用案内

［開館時間］<9月10日～10月6日>　<12月3日～12月28日>
9：30～17：00
<10月8日～12月1日>
9：00～17：30
＊金曜日は20:00まで開館
＊入館は各閉館の30分前まで

［観覧料］【特別展「法然と極楽浄土」】
<10月8日～12月1日>
一般1800円（1600円）、大学生1200円（1000円）
高校生 700円（500円）
＊（ ）内は団体20名以上。中学生以下、障害者の方とその介護者1名は無料（要証明）。
＊キャンパスメンバーズ（含教職員）は学生証または教職員証をご提示いただくと、各種当日通常料金より500円引きとなります。

【庭園のみ開館期間】
<9月10日～10月6日>　<12月3日～12月28日>
一般 300円、大学生 150円
＊高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料（要証明）。
＊キャンパスメンバーズ（含教職員）は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。
＊有料（一般のみ）にてご入館の方には、庭園ガイド冊子がつきます。

［休館日］月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館）、令和6年12月29日（日）～令和7年1月1日（水・祝）

アクセス

JR＝京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統にて博物館三十三間堂前下車すぐ
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分
近鉄電車＝近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分
京阪電車＝七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車＝京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

＊「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒（角2封筒は140円、長3封筒は110円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館企画室までお申し込みください。

公式サイト
https://www.kyohaku.go.jp/

X（旧Twitter）・Instagram
@KyotoNatMuseum

トラりん公式サイト
https://www.kyohaku.go.jp/jp/torarin/

〒605-0931　京都市東山区茶屋町527
TEL. 075-525-2473（テレホンサービス）

発行日　令和6年10月1日　デザイン 谷なつ子
編集・発行 京都国立博物館　印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM